

コロラドスタディツアー2018 (7月30日~8月9日) 実施報告書



(公財)出羽庄内国際交流財団

目 次

- ◆ はじめに P. 1
- ◆ スタディツアー 日程表 P. 2
- ◆ スタディツアー 訪問先マップ P. 3
- ◆ 日記 P. 4
- ◆ 参加者によるツアー報告書 P. 18
 - ◇ 伊 藤 遥 (酒田西高等学校 2年) P. 18
 - ◇ 今 井 輝 星 (加茂水産高等学校 3年) P. 20
 - ◇ 佐 藤 那 柚 (羽黒中学校 2年) P. 22
 - ◇ 鈴 木 里 実 (鶴岡南高等学校 2年) P. 24
 - ◇ 中 島 春 香 (鶴岡南高等学校 2年) P. 26
 - ◇ 中 瀬 早 香 子 (鶴岡中央高等学校 3年) P. 30

はじめに

(公財) 出羽庄内国際交流財団では、2008年より「中高生コロラドスタディツアー」、翌2009年より「社会人コロラドスタディツアー」を実施してきました。今年で11回目を迎えたツアーには、中学生1名、高校生5名の、合わせて6名が参加し、7月30日から8月9日までの11日間、山形県と姉妹県州の関係にあるアメリカ・コロラド州で様々な異文化体験をしてきました。

このプログラムは、コロラド州の人たちとの交流を通して国際的感覚を体験的に身につける、英語実践力を向上させることなどを目的としています。日本では体験できない雄大な自然の中でのアクティビティ、英語のみで行われる英語レッスン、コロラドの一般家庭に滞在するホームステイ。事前に数回の研修会と英語レッスンを行い、コロラドへ行く為の準備をしました。とはいえ、言葉も文化も違うホストファミリーとの生活などの慣れない環境に最初は皆さん不安そうでしたが、現地の方々の温かい受け入れにより積極性を持って各プログラムに取り組むことができました。ツアーで経験したことを通して、参加者の皆さんは「考え方が変わった」「以前より積極的になった」など、一回りも二回りも成長して帰国した様子が見受けられました。

今年も参加者全員が数々の素晴らしい体験ができたのは、現地でこのプログラムの支援をしてくださる皆さんのおかげです。毎年全体プログラムの調整と現地の同行、また今年はホストファミリーの調整もしてくださった村治孝浩さん、ホストファミリーの皆さん、コロラド日米協会の皆さん、英語を指導してくださったシェリー先生、コロラド・ユース・イン・アクションの皆さんに、心から感謝申し上げます。

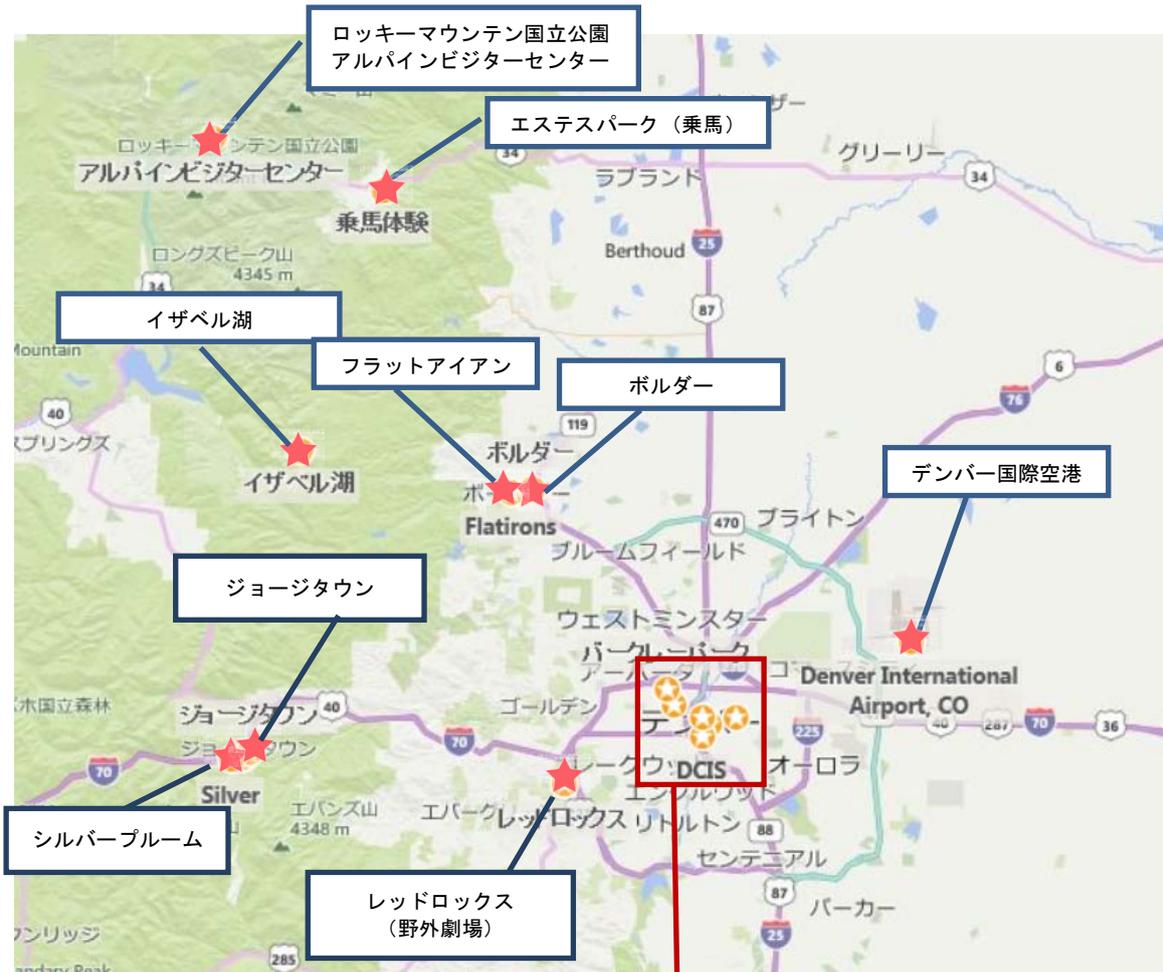
(公財) 出羽庄内国際交流財団
佐藤綾子

コタディツアー 日程表

期間：2018年7月31日～8月9日 11日間

月日	時間	訪問先など	備考
7/30	8：35	庄内空港→羽田空港	全日空 396 便
	17：15	成田空港出発	ユナイテッド航空 142 便
	14：30 ※現地時間	デンバー国際空港に到着 各ホストファミリー宅へ	
7/31	午前	レッドロックス（野外劇場）見学	
	午後	16 th ストリートモール 散策 州会議事堂見学	
8/1	午前～午後	イザベル湖へハイキング	
	夕方	ボルダー市パールストリート散策	
8/2	午前	英語レッスン	
	午後	デンバー自然科学博物館見学	
8/3	午前	朝食付き乗馬体験	
	午後	ロッキーマウンテン国立公園	
8/4	終日	ホストファミリーデー	
8/5	午前	日系人会ピクニックに参加	
	午後	ホストファミリーデー	
8/6	午前	蒸気機関車&金鉱ツアー	
	午後	ジョージタウン散策	
8/7	午前	デンバー市内公立高校（DCIS）見学	
		英語レッスン	
	午後	フラットアイアン見学 ボルダー市パールストリート散策	
夜	コロラド・ユース・イン・アクションのメンバーと交流会		
8/8	12：40	デンバー国際空港 出発	ユナイテッド航空 139 便
8/9	20：15	羽田空港→庄内空港	全日空 399 便

コロラドスタディツアー 訪問先マップ



デンバー中心街地図



コロラドスタディツアー 日記

7月30日(月) ～1日目～
担当：佐藤 那柚

成田空港で出国審査が終わり、ユナイテッド航空の飛行機に乗ると、国内線とは違う雰囲気に対し戸惑ったけど、「アメリカに行く！」と思うとドキドキしました。

アメリカ到着！ワクワクもドキドキも不安もいっぱいあったけどそれ以上にこの体験を楽しもう！と思いました。デンバーは日本の空と全然違ってアメリカに来た実感がわきました。



ホストファミリーと会うと予想以上に緊張しました。でもホストマザーのヴァネッサは、簡単な質問と日本語を入れて話してくれて少しずつだけ会話できるようになりました。そして夕食後には、ホストブラザーのトビアスとホストシスターのアンジェリーナと一緒に小学校でバスケットをしました。負けたけど2人との距離が縮まった気がしました。

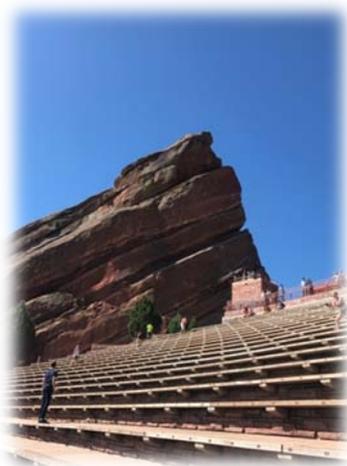
アメリカ初日からとっても楽しかったです。



7月31日（火） ～2日目～

担当：中島 春香

この日はデンバー観光のため、朝7時に起きて朝食。アメリカの朝ご飯はシンプルなものが多いと聞いていたのですが、この日の朝食は、ホストファミリーがタコスと3種類のソース、シナモンロールにストロベリーティーを用意してくれて、想像していたよりずっと豪華でおいしく、なかなか体験することのできない朝食を楽しむことができました。



コロラドツアーの初めはレッドロックスからでした。野外劇場へと近づくにつれ、赤っぽい土や、斜めに切り立って地層がはっきりわかる岩など、日本ではまず目にすることのない自然に驚きました。野外劇場は、ワークアウトをしているお姉さんがいたり、水を撒くおじさんがいたり…と、青空のもとでみんなが思い思いのことをしている、とても開放的な場所で、いつか私もこのコンサートに行きたいなあと思いました。

そのあとみんなでデンバー市内の観光をしました。まず州議会議事堂に行ったのですが、おおきなステンドグラスや歴代大統領の肖像画、赤い大理石の柱など、テレビでしか見ないようなものがたくさんあってワクワクしました。入口の前に飾られている像は先住民が狩りをしている場面のものだそうです。あと、階段の手すりが大砲の球を再利用して作られているようで、どうしてわざわざ大砲の球を使うのかなあと不思議に思いました。





それからデンバー市内を歩き、お土産屋さんを見たり、お菓子を食べたりしました。お菓子を量り売りしてもらい、その場で食べるという、日本ではない買い物のスタイルがとても楽しかったです。東京のように人は多くありませんが、さすが州都といった感じで、やっぱり都会でした。

あと、みんなで歩いているときユニクロを見つけ、「ユニクロがある！」と言ってみんなで入りました。日本の店が当たり前のようにアメリカにある…ということに何だか感動して、グローバリズムを肌で感じました。

帰宅する前にスーパーへ寄ってバーベキューの食材を買いました。アメリカのスーパーは、何もかもが大きく、驚きを隠せませんでした。夜ご飯は、ホストファミリーが用意してくれて、その時に日本から持って行ったちらし寿司を作りました。酔飯なので、口に合うかどうか少し不安だったのですが、二人ともとてもおいしいと言いながら食べてくれて、とても安心しました。しっ



かりと焼いて塩と胡椒をかけた牛肉は、当たり前ですが日本のものと同じ味がして、2日目でまだ緊張していた私はほっとしたのを覚えています。

8月1日（水） ～3日目～

担当：鈴木 里実

今日はイザベル湖へトレッキングに行きました。イザベル湖へ向かう途中、少し山の中を歩いていかなければならなかったのですが、標高が高いせいか、傾斜が急な場所になるとすぐに息が上がって大変でした。しかし、レモンの香りがする木や、小さなハチドリを見つけたり、飼い犬と一緒に歩いている人とたくさん出会ったりなど、



こちらではあまりないようなことにも触れられて、私にとって新鮮でした。また、孝さんがこんなクイズを出しました。「なぜ岩の粒は標高が高いところのものほど小さいのか？」ヒントをいろいろもらいましたが、その時はだれも答えられませんでした。後日わかったことなのですが、岩の隙間に水が入り込んで、その水が凍って膨張すると岩が粉碎されて粒が小さくなるのだそうです。



そしてついに、イザベル湖へ到着！文章と写真だけでは伝えきれませんが、開放感があって、コロラドの自然の豊かさを感じることができました。イザベル湖を目の前にして、お昼ご飯を食べたり、お昼寝をしたりして、みんなでのんびり過ごしました。頑張ってたどり着いた場所で過ごす時間は格別でした。

そのあとはボルダーという街に行きました。その街のお店はどれもおしゃれで、外から眺めているだけでも幸せな気分になりました。ある雑貨店では、マグカップなどの食器類やコロラドで有名なお菓子、レシピ本など

を見て回って楽しみました。その店員さんがとてもやさしくて、支払いのとき、アメリカの硬貨についてよくわかっていなかった私に丁寧に教えてくれました。

イザベル湖の自然を感じたり、ボルダーでショッピングを楽しんだり、今日も多くの新しいことに出会えて充実した一日となりました。



8月2日（木） ～第4日目～

担当：中瀬 早香子



今日は初めての英語レッスンがあり、その後に自然科学博物館を見学しました。

英語レッスンでは全て英語での授業に戸惑いましたが、先生の話していることを理解できるように頑張りました。日本の学生は受け身が多いと言う話を聞いていたので、積極的に発言するように気をつけました。先生はアメリカの学生との

ギャップを感じたと思いますが、最後まで優しく接してくれました。

私のボキャブラリーは圧倒的に少ないため、コミュニケーションをとるのが大変です。ホストマザーのリンダと一緒に宿題をしてくれて、わかりやすく教えてくれるのでとても嬉しいことでした。英語で英語を学ぶと自然と身体に身につくような気がします。

自然科学博物館では日本で見られない恐竜の化石を見ることができました。そこでは、恐竜が実際に存在したことを肌で感じることができました。恐竜がいた時代の想像ができて面白かったです。

今日もホストファミリーは優しくかったです。どうやったらお返しできるか考える毎日です。



8月3日（金）～第5日目～

担当：今井 輝星

今日は、乗馬体験とロッキー国立公園に行きました。朝5時頃にリンダの家に集合して、そこから、ヴァネッサの家にも他のメンバーを迎えに行き、エステスパークの方へ向かいました。乗馬に行く途中で、デンバーの夜景が見えて、すごくきれいでした。

みんなで話しながらエステスパークの近くに来ると、孝さんが問題を出しました。その問題は、アメリカの歴史とアメリカの人の性格についてでした。それを答えたりしていると、湖が見えてきました。すると孝さんがこの場所には、フクロウが2匹いるから探してみ、と言いましたが、みんなで探しても見つけれませんでした。孝さんが後で教えてくれたのでわかりました。岩山の方です。

今回乗馬する場所に着きました。そこで、みんな馬に乗る準備をしてから、馬に乗ります。馬には、それぞれ名前があり私が乗る馬は、チャーリーという名前でした。みんな馬に乗りいよいよ乗馬のはじまりです。馬に乗りながらずっと山の上の方に行きました。そこからは山などの景色が見えてきれいでした。乗馬コースの中に朝食を食べる場所があり、そこで朝食を食べました。メニューはパンケーキとソーセージです。パンケーキはとても美味しかったです。朝食を食べ終わってからまた馬に乗って乗馬場に戻り、そこからロッキー国立公園に向かいました。



ロッキーに行く道は細く、針葉樹たくさん生えていてすごく不思議な気分になりました。

ロッキー国立公園に着くと周りは、森林限界で岩がむき出しの所がありました。車から外に出ると風も強く寒かったです。でも景色は最高でした。山

の上にあるお土産屋もすごくいい所です。私はほとんどここでお土産を買いました。帰りは、天気がだんだんよくなって来ました。孝さんが景色のすごくいい所によると言いました。そして山の下の方へ行き車を止めその場所を見に行きました。そこは、日本で見るできないぐらい広い草原や針葉樹林がたくさんあり、いつまでも見ててられそうな景色できれいでした。

今日はすごく思い出に残る日でした。



8月4日（土）～第6日目～

担当：伊藤 遥



今日はホストファミリーデーでした。ファミリーでデンバー市内にある、パークメドースというモールに行きました。日本でも馴染みのあるお店もいくつかありました。何よりもとても広くて、一度ではすべて回りきれませんでした。いくつかのお店に、「3つ買ったから3つ無料」などの、日本ではあまり見たこ

とのないシステムがあつて驚きました。

夕飯は、メキシコ料理屋さんに行きました。タコスやグアカモレやトルティーヤを食べました。初めて食べたものもあったけど、どれも美味しかったです。メキシコ料理は豪勢で、すぐにお腹いっぱいになったので、家にテイクアウトしました。テイクアウトできるシステムが日本にもあったらいいのになあと感じました。食事中の会話はとても楽しかったです。



ホストファミリーと一緒に、充実した1日を送ることができました。

8月5日（日） ～第7日目～

担当：中瀬 早香子

今日は日系人会が主催するピクニックに参加しました。日本語を話せる人、見た目が日本人の人などたくさんいました。日本の外でもこのように沢山の人が集まるのを見て、日本への愛を感じました。



いくつかのテントで食べ物を提供している中で、私達は醤油味と味噌味の芋煮を作りました。今年からお鍋を新しくしたようで、綾子さんが飛行機で一生懸命運んでいたのが印象的でした。その大きなお鍋を使ってたくさんの芋煮を使いました。みんなで作るのが新鮮で、楽しかったです。芋煮を渡す係をすると、たくさんの日系人と関わることができました。その中で、鶴岡出身のとてもパワフルな日本人女性の方と出会いました。英語はアウトプットが大切だと教えてくれました。

アメリカにいながら子育てをしているということに刺激を受けました。

途中で花笠を披露しました。その間ホストマザーのリンダが最初から最後までずっと動画を撮っていました。踊りを終わったあと、「良かったよ」と言ってくれて、嬉しかったです。



ピクニックのあとはリンダの誕生日会をしました。リンダの息子さん家族が来て一緒に祝いました。英語での会話が早くてついていけなかったけど、私が話しているのに耳を傾けてくれてとても優しくしてもらいました。リンダの孫のリリーが私を見て珍しそうな顔をしていたけどちゃんと話そうとしたら、少しずつ答えてくれました。

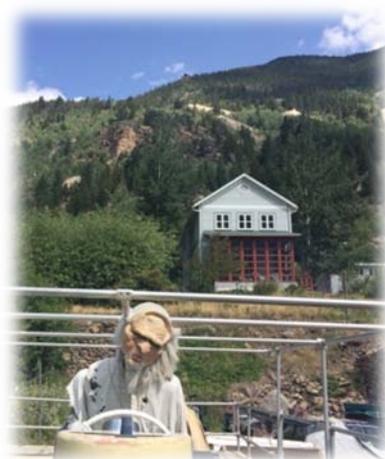


初対面の人とたくさん関わった一日になりました。

8月6日（月） ～第8日目～

担当：佐藤 那柚

今日はラフティングをする川の水量が足りなくてできなかったのですが、その代わりに 蒸気機関車と、採掘ツアーと西部開発時代の街を散策しジョージタウンに行きました。蒸気機関車と採掘ツアーでは、機関車を いったん降りてから洞窟のようなものに入って、昔どのように採掘していたのかを聞きました。でも英語 だから全然分かりませんでした…



その後は自分で砂金を取りました。初めての体験で難しかったし意外と大変で腕が疲れたけど楽しかったです。西部開発時代の街には、古い建物ではあるけど古さを感じさせない可愛い建物が多く、そんなに経ってるの?とびっくりしました。面白い案山子もあり楽しい街だなと思いました。古さをリフォームなどで可愛さに変えずずっと使うという日本での古い建物を残すやり方とはまた少し違って、でもしっかり歴史を残すというのがアメリカのいい所だと思います。ジョージタウンは、お店がたくさんあったし

昔ながらの街並みで可愛くてずっと居たくなるような所でした。

ホストファミリーとは最後の夕食で寂しいという気持ちが心の中にあっても、とても楽しく過ごしました。そしてみんなでゲームをして終わりました。

新しい発見と驚きがたくさんあって楽しくて面白い1日になりました。



8月7日（火） ～第9日目～

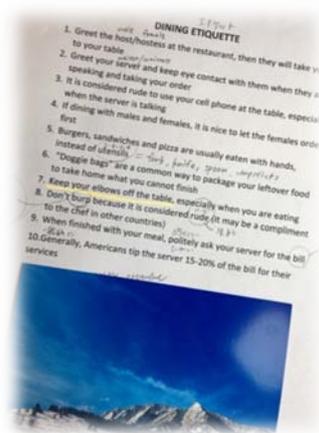
担当：伊藤 遥



今日はコロラドスタ
ディツァーの最終日で
した。最初は中高一貫
の学校「Denver Center
for International
Studies」を訪問しまし
た。その学校の生徒た
ちが学校の設備や制度
を紹介してくれました。
この学校は8ヶ国語を
学ぶことができるらし
く、とてもグローバル
な学校でした。クラブ

活動も充実していて、演劇部が人気だそうです。見学していて一番驚いたのは、運転免許を獲得できる上級生の中には、自分の車で運転して登校してくる人が結構いることです。日本の学校では考えられないことだったので、とても衝撃を受けました。

学校見学の後は、シェリー先生の英語レッスンを受けました。アメリカの挨拶やテーブルマナー、エチケットなどを勉強しました。特に印象に残っているのはチップの制度で、消費税も払っているのに、15～20%もチップを払うということです。最後にシェリー先生が綺麗なフラットアイロンという山々の写真をプレゼントしてくれました。素敵なお土産になりました。



夜は、コロラドユースインアクションのメンバーと日本語と英語で交流しました。ダンスや歌を披露しあったり、福笑いをして遊んだりしました。とても楽しかったです。充実した日を送ることができました。

8月8日（水） ～10日目～

担当：中島 春香

この日はもう本当に帰るだけでしたが、最後のパッキングをしている間や、朝ご飯を食べているときなど、妙に現実感がなくて、本当に帰るのかなという感じでした。でも、ホストファザーや子供たち、お世話になったほかのホストファミリーにさよならを言ったり、ハグや握手をしているうちにさみしさがこみあげてきて、泣かないようにするので精一杯でした。



空港に行く途中のバンの中で、一番心に残ったことや、旅を果物で例えると？といった話をしたのですが、みんなホストファミリーやコロラドと離れる悲しさで泣いていて、卒業式みたいな感じでした。でもそれだけ、ツアーが楽しかったということなのだと思います。

空港に着くと、10日前ここから出発したのだということが信じられなくて、本当にあっという間だったと思いました。来たときは不安や緊張が多くて、帰るときにこんなにつらくなるとは思いませんでした。やっぱり帰るのがつらかったですが、手荷物検査の奥のエレベーターまでタカさんが見送りに来てくれて、とても心強かったです。最後に飛行機からデンバーの街を見下ろしながら、心からコロラドに来てよかったですと思いました。



8月9日（木） ～11日目～

担当：今井 輝星

成田空港に到着しました。デンバー空港からだいたい10時間くらいで着きました。

私が座った飛行機の席は、エコノミーの窓側の席でラッキーでした。でも翼の真ん中ぐらいの席だったので、あんまり外が見えませんでした。太陽がずっと日本に着くまで見えていました。なので、時間の感覚がおかしかったです。

飛行機を降りてからは湿度が高くて驚きました。少し気持ち悪かったです。成田空港のターミナルからバスで羽田空港第2ターミナルまで行きました。バスに乗ってからは窓の外を見ていました。田んぼや住宅街を見て、日本に帰ってきたなあと思いました。

私の席の後ろの人は、たぶん私たちと同じようなホームステイ体験をした人だと思いました。その人は、カナダにホームステイに行った話をしていました。私はその話をずっと聞いていて共感できることなど多かったです。例えば、家がとても大きい所やお菓子がすごく甘いなどです。

羽田空港着いてからは、みんなとは、ここからです。なぜなら私は、大阪に行く予定があるからです。みんなが無事日本に来られたので良かったです。



コロラドスタディツアー 報告書

コロラドスタディツアー報告書

酒田西高等学校 2年 伊藤 遥

私がこのツアーに参加したのは、高校在学中に海外に行ってみたくて思ったからです。あまり遠出をしないし、ましてや海外は初めてだったので、とても緊張すると思っていましたが、リラックスして、楽しくプログラムに参加することができました。



めることができたり、とても新鮮でした。

ホストファミリーと過ごす時間もとても楽しかったです。ツアーに行く前から少し緊張していましたが、いざ会ってみたら、沢山話しかけてくれたり、自分が伝えたいことを理解しようとしてくれたりして、優しくて安心しました。とても活発なファミリーで、夕食の前に庭でバスケットボールをしたり、ベースボールをしたりしました。本当に素敵なファミリーで、別れが惜しかったです。

プログラムの中で一番楽しいと思ったのは、乗馬体験です。乗馬をするのは初めてでしたが、ガイドの方に馬の扱い方を教えてもらって、安全に快適に乗馬を満喫することができました。あまり近くで馬を見たことがなかったので、意外と背が高くて驚きました。数え切れないほど馬がいましたが、一頭一頭に名前が付いていました。また、朝食を外で食べたり、周りの山々の美しい風景を眺



現地コーディネーターの孝さんは、とても面白い方でした。プログラムで訪れた場所それぞれで、そこにまつわる地理的なことや、歴史について沢山教えてくれました。また会って話がしたいです。

このツアーに参加して人生観や価値観について、改めて考えさせられました。自分では、自分は他の人よりは社交的だと思っていたのですが、アメリカに行ったら、自分はまだまだシャイなのだと気づかされました。自発的になること、物をはっきり言うことが大事だとわかりました。この機会を与えてくださった皆さんに感謝したいです。



コロラドスタディツアー報告書

加茂水産高等学校 3年 今井 輝星



私がコロラドツアーに参加した理由は、ずっと海外に憧れていて行きたいと思ったからです。飛行機で10時間ぐらいで、デンバー空港に着きました。私はすごく緊張していました。なぜなら私は英語が苦手です。税関を通らないといけないからです。なんとか税関を通り空港の外に出るとそこには、日本と違う世界があってアメリカに来たという感じでした。この日の活動はホストファミリーと

の交流会で、どんな人が来るのだろうとワクワクしていました。

私の約2週間お世話になるホストファミリーの人はショーンさんです。ショーンさんは体格がすごくて力もありそうでした。家に着くとその大きさにすごく驚きました。そして部屋に案内してもらい家の紹介をしてくれました。夕食ははじめてのアメリカ食を食べました。

食べているときにいろいろ質問されましたが、あまりききとれなくて答えられなかったです。

次の日はレッドロックスに行きました。周りは大平原で景色もとてもきれいでした。デンバー市では買い物をしたり、町を見たりすごくいい時間をすごしました。店員さんが「How are you?」や「Have a good day.」を日常的に使っていたので日本でも言ってほしいなと思いました。

イザベル湖に行ったとき、目の前の景色を見たときは、タカさんが「考え方が変わる景色がある」と言ったように、本当に私はあると思いました。

私は海外の山に登ってみたいと思っていたので、夢が叶ったのでとても嬉しかったです。デンバー自然科学博物館はコロラドの歴史についてジオラマがリアルで迫力がすごかったです。その日はショーンさんが博物館まで迎えに来てくれてアイス屋につれていってくれ、私はバニラアイスを食べました。日本と違い甘くておいしかったです。

ロッキー国立公園は霧が濃く風も強かったです。今までこんなに高い場所にきたことなかったのもまたこの場所に来たいと思いました。



ホストファミリーデーではプールやジム、山などに連れてってくれました。プールは飛び込み台がありそこからとんだ時は本当にたのしいと強く思いました。それからジムに行きそこで筋トレ、バスケをしました。もともと体力のない私がさらに高い場所でスポーツをしたので、もう息が続かなかったです。でもすごい刺激があったので、ものすごく貴重な体験でした。

日系人会ピクニックでは花笠を踊ったり色々な人に出会いました。その中でも印象に残っている人は、日本からきた留学生の人でした。留学についていろいろ話をしました。私も留学してみたいと思いました。

最終日のタカさんからきいた話が一番印象に残っています。それは日本と違い選択肢が多くあるということです。アメリカではやりたいことは何でもやる、その言葉を一番覚えています。

最終日の最後の朝食はドーナツです。忘れないように味わって食べました。空港に向かっている途中でタカさんから一人一人に、今回のコロラドツアーをフルーツに例えるなら何ですか？と聞かれ、私はスイカと答えました。なぜならスイカは中心に行くほど甘く種もあり、種は問題で、外側から中心にかけては少し不安からすごく楽しいということを表現しました。

空港に着いて、そこでタカさんとはお別れです。ホストファミリーより多くの時間をみんなで過ごしたのでとても悲しくなりました。最後にみんなで記念撮影をしました。

人生で初めてこんな楽しい2週間を過ごせてよかったです。色々な人と喋り、見たり、経験したりしました。本当に参加して良かったです。またコロラドに行きたいと思いました。

コロラドスタディツアー報告書

羽黒中学校 2年 佐藤 那柚

私がこのスタディツアーに参加した理由は、日本では出来ないことを体験したり、日本との考え方との違いなどを体験して知りたいと思ったからです。また、英語力がなくてもそこで自分で対応する力、自分だけで何かする力が身に付けられればと思い参加しました。

事前研修では、英語で会話とか難しくて、「大丈夫かな？」と不安になりました。そこで家で英語を使ってみたりしました。

庄内空港を出発して少しずつアメリカに近づいていると思うととてもワクワクしました。アメリカでの入国審査はすごく緊張したけど無事通ることが出来て安心しました。空港から出ると車は右側通行だし空が日本と違うし、何よりも「でかい！広い！」新しい発見だらけでした。しかしまだ、自分が今アメリカにいるというのがまだ信じられませんでした。

ホストファミリーと会い、カタコトの英語とカタコトの日本語で会話しました。日本語がとても上手でびっくりしました。でも英語力がない私はとても安心しました。ホストマザーのヴァネッサの料理がとても美味しくてみんないっぱい食べているのになんで太らないのかが不思議でした。3歳上のトビアスと1歳下のアンジェリーナとはWiiやカードゲームをして遊びました。分からない所もあったけど手振り身振りでなんとか理解して楽しく遊べました。ホストファミリーデーにはホストファーザーのジェイコブとアンジェリーナと一緒にロッククライミング、ヴァネッサとアンジェリーナと一緒にタイダイ染めをしました。初めてだらけで難しかったけど面白くて楽しい1日になりました。





ツアーのプログラムでは、トレッキングや乗馬、英語のレッスンなどがあり1日が驚くほど早く過ぎていきました。特に英語レッスンでは初めて聞く単語や熟語がたくさんあり難しかったけど新しいことを知ることが出来て嬉しかったです。もっと英語を勉強したいと思いました。

大変なこともあったけどアメリカのフレンドリーな感じとか、いい意味で大雑把な所などが行く前に考えていたよりも日本と違っていてそんなことも知れたことがとても嬉しかったし、日本の考え方が悪い訳ではないけど、アメリカの方が視野が広くて私はアメリカの考え方が好きだなと思いました。しかし日本のいい所もたくさんあるので調べて自分の知識を広げていけたらなと思いました。

この経験を通して視野や考え方が広がりこれからの生活がもっと楽しくなると思いました。2週間もないこのツアーですがいろんなことがあって楽しくて、英語を知れて最高のツアーなので、みなさんもぜひ参加して下さい。



コロラドスタディツアー報告書

鶴岡南高等学校 2年 鈴木 里実

私がこのツアーに参加しようと思った理由は、実際にアメリカに行って、その雰囲気を感じたかったからです。以前から海外へ行くことに興味があり、この機会にぜひアメリカに行って、自分自身の感覚でアメリカのことを知りたかったと思いました。また、将来は海外とつながるようなことをしたいと思っていて、このツアーに参加すれば何か手がかりを見つけられるかもしれないと思い、参加することに決めました。

日本から出発してデンバー国際空港に着いてようやく、ついに海外での生活が始まるのだなという実感がわいてきました。私が海外に行くのはこのツアーが初めてなので、これからどうなるのだろうと、少し緊張もしましたが、これまで見たことのない新しい世界に出会えるのだと思うと、楽しみで仕方ありませんでした。

私のホストファミリーは、お父さんのジョン、お母さんのクリスティン、息子さんのアンドレの3人と犬のベンでした。最初に会った日から最終日まで、本当に親切にしてくださいました。自分が言いたいことを英語でどう言えばよいかわからず、たどたどしくなってしまうときもゆっくり聞いてもらえて、嬉しく思いました。また、みなさんが明るい性格である上に、わかりやすい英語を使って話してくださったので、とても話しやすくお喋りするのが楽しかったです。クリスティンが料理するのを手伝ったり、一緒にディナーを楽しんだりしたときは特に、家族の一員としてみてくださっているようで、あたたかさを感じました。毎日のアクティビティのあとやホストファミリーデーのときは、私をいろいろな場所へ連れて行ってくださいました。ベンとの散歩、公園でのミニコンサート、ジェラート屋、植物園、ショッピングモール、などなど。どの場所でも楽しさや感動を共有することができて充実した時を過ごしました。お別れの日はとても悲しかったのですが、「いつでも連絡ちょうだい。」と励ましてもらえて、気持ち少し楽になりました。ホストファミリーのみなさんと過ごしたすべての時間は私にとって大切な宝物です。



アクティビティでは、コロラドの有名な場所を多く訪れて、それぞれの場所でその魅力を感じて楽しみました。私の中で最も強く心に残っていることは、8月3日の出来事です。その日は、ロッキー山脈のふもとで乗馬をしたり、実際にロッキー山脈に登っていったりしました。以前、乗馬をしたことはあったのですが、今回はその時よりもずっと長い時間乗馬を楽しむことができた上に、乗馬のコースに高低差があったため、スリリングな体験になったことが印象的でした。さらに、途中で見えたエステスパークの景色もとてもきれいでした。また、このロッキー山脈でコロラドの自然の雄大さを最もよく体感することができました。霧はかかっていたのですが、それにもかかわらずその自然の大きさに圧倒されました。日本とはまた違った美しさを感じることができて、よい経験になりました。



このツアー全体を通して見てみると、英語で誰かと会話するときにおいて大切なことは文法よりもコミュニケーションをとろうとする態度だということを実感していました。例えばアイコンタクト。アメリカでは、日本でいうお辞儀くらい重要なことなのだそうです。相手がこちらに話しかけているとき、目を見てくれていると、より相手と

つながっているような気持ちになりました。私はつい視線をそらしてしまう癖があり、相手に対して失礼になってしまったこともありました。そのことをもう繰り返さないように、相手の目を見て話を聞いたり、話したりするように心がけました。これはアメリカだけではなく、日本でも通じることだと思えます。今更ながらコミュニケーションの基礎を学びました。

また、ツアーの終わり頃に孝さんからこのような言葉を聞きました。「自分ができることではなく、自分がやりたいことをやれ。」私もこの言葉にぐっときました。普段は、あまりしたくはないけれどとりあえずしていることに追われて、なんとなく味気無さを感じていました。このツアーに参加し、他の国の雰囲気を知りたいという思いをかなえられて、毎日充実した時間を過ごすことができ、やりたいことができるということの面白さを知りました。今の時点で、自分が本当にやりたいことはまだよくわかりません。これから様々なことに触れて、少しずつでもはっきりしてくれればと思います。

最後になりますが、孝さん、国際村のみなさん、ホストファミリーのみなさん、私たちを支えてくださった多くの方々に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。この思い出を心に留めて、これから一日一日を大事にして過ごしていきたいと思えます。

コロラドスタディツアー報告書

鶴岡南高等学校 2年 中島 春香

私は初め、このツアーに参加することになるとは思っていませんでした。家から離れて一週間も外国でホームステイするなんて、私には絶対無理だと思っていたからです。しかしこのツアーを終えた後、あの時勇気を出して「行く」という決断をできたことが本当に良かったと思います。

アメリカに行ってみてまず思ったのは、とにかく人びとがフレンドリーなことです。ホストマザーのヘザーに連れて行ってもらった、アーティストが集まるパーティでは、みなさんが英語が十分に話せない私を会話の輪に入れてくれたり、話しかけてきてくれたりして、とてもうれしかったです。また、あるお土産屋さんでは、少しだけ日本語が話せる店員さんに出会い、日本語や英語を交えながらおしゃべりをしたことがとても楽しかったのを覚えています。金額を日本語で伝えてくれようとしたのですが、指を折りながら「いち、にい、さん、よん、ご…」と数えている姿がかわいかったです。

それから、よく自分の意思を確認されるなあと思いました。英語の特徴なのかもしれませんが、” Do you want to try?” とか、” What do you want to eat?” といったように、やりたいのかやりたくないのか、なにをしたいのか、ということ細かく聞かれるのは、日本と大きく違うと感じました。日本人はよく要求をあいまいにしがちだし、それが美德とされていますが、アメリカでは迷っていると困った顔をされます。自分の意思をはっきり素早く伝えることは日本人にとって苦手でも、とても大事なことなのだとわかりました。

文化の違いでもう一つ思ったのは、食べ物のことです。アメリカの食べ物は基本的に全部味が濃く、しょっぱいものはすごくしょっぱい、甘いものはすごく甘い、という感じで、これがアメリカの食べ物かと感じました。どの料理もとてもおいしかったのですが、やはり生野菜や白米が恋しくなりました。何より衝撃的だったのは、ケンのお母さんの家で食べたカップケーキです。見た目はよく写真で見るとようなカラフルでかわいいケーキでした。しかし、一口食べてみるとまさに暴力的な甘さで、どうしてアメリカの人はこれを日常的に食べられるんだろう…と思いました。



また、私は今回二つのホストファミリーの家に泊まることができました。一軒目は、ケンとヘザーという夫婦、サンディーとジミーという犬二匹で生活し

ている家庭でした。一日目に着いてすぐはとても緊張していたのですが、ケンが「僕たちの家は君の家でもあるんだから、何かあったら何でも言ってね」と言ってくれたのが、すごくうれしくて泣きそうになりました。朝ごはんの時間も寝る時間も自由で、前々から聞いてはいたけどこんなに自由なのだなと思いました。二人とも日本や日本語が好きで、ヘザーはよく「いぬ」とか「ねこ」とか、「さかながすきです！」という日本語を言っていて、陽気で面白い人でした。ホストファミリーデーにはデンバー美術館や、青い熊の大きなオブジェクト、カトリック教会を見に連れて行ってもらったり、映画館で映画を見たりしました。映画館では、その場で注文するとお姉さんが食べ物を持ってきてくれて、映画を見ながら夕食を食べることができ、日本でもやったらいいのになあと思いました。



二軒目はバリーとナタリアという夫婦、その子供のアルバとガイルという姉弟のファミリーでした。ナタリアはスペインの人で、やっぱり多くのアメリカ人とは発音やアクセントが違って、当然ながら英語でも訛りがあるのだなあと感じました。この家庭にはほぼ三日間しか滞在しませんでした。やはり子どもたちが面白かったです。お互いに服を脱がせようとして怒られたり、突然「変なダンス選手権」を開催し始めたり、ご飯を終わらせないまま立ち歩いて怒られたり、日本の子どもと全然変わらないなあと思ってほっこりしました。

どちらのホストファミリーも、わたしに本当に気をつけてくれて、私の英語がめちゃくちゃでも、英語がうまく聞き取れなくても、コミュニケーションをとろうとしてくれて、とてもありがたいと思いました。二家庭だったので、当然ですが二回別れをしなければならず、特に一件目のケンとヘザーのときは前の晩からずっと泣いていたのを覚えています。

アメリカに行ったことで、逆に日本の良さに気づけたときもありました。例えば、1ドルショップに行ったときは、造花の花びらが散乱していたり、商品が無造作に床に落ちていたりしてびっくりしました。後でそのことをタカさんに話すと、アメリカではお店の価格帯によって、そのきれいさが違うというこ



とを教えてもらいました。日本では、百円ショップのような商品の安い店でも、店内はきれいに保たれていますが、それは当たり前のことではなく、日本だからこそなんだということを学びました。一度外に出てみることで改めて自分の国の良さに気づけたと思います。

それから、初めて生きた英語にまともに触れて、自分の英語力の未熟さを痛感しました。これは本当に毎日思っていました。実際にしゃべる英語は、テストの英語とは違います。知っている言葉なのに、ぱっと出てこなかったり、相手の話に相槌が打てなかったりして、何度も歯がゆい思いをしました。しかし、話せるようになるためには、いっぱい話すしかありません。もっともっと英語を磨いて、少しでも円滑に話せるようにしたいと強く思います。

アメリカで学んだことは書ききれないほどありますが、最も心に残っているのは、最終日の車の中で孝さんがみんなに話してくれたことです。「できることをやるのではなく、やりたいことをやれ」というのが、印象に残っています。できないかもしれないと思っても、少しでもやってみたいという気持ちがあるならば、とりあえずやってみる。もしかしたら案外できるかもしれないし、できなかったとしても、何もやらないよりはよかったと思えるでしょう。これはツアーを通して私が体感したことでもあります。ツアーに参加したいという気持ちじたいがそうだし、オールイングリッシュの英語レッスンや乗馬体験など、初めての経験ばかりで、そのどれもに不安はありましたが、終わってみるとすべて楽しかったと思えました。日本では、よく「できることから始めよう」と言われます。確かに、できないことをいきなり始めるのは無理でしょう。しかし、このツアーで「できるところ」から一步だけ踏み出してみるという勇気が、いかに大切かということを知ることができました。



もう一つ印象に残っているのは、様々な人との出会いです。二家庭のホストファミリーはもちろん、待ち合わせの時間にお世話になったヴァネッサさんの家族や、ユースインアクションでたくさんおしゃべりをした高校生の女の子、日系人ピクニックで大量の食べ物をくれた、日本語を勉強している男の子

などなど、思い出せないくらいたくさんの人たちと出会い、話をし、それぞれから違った新しい刺激を受けて、とても貴重な経験になりました。よく知っている人たちだけでなく、全く知らない人と話をしてみるというのは、どこに行っても大事なことでと思います。こんな風に思えたことを忘れず、ずっと大事にしていきたいです。

初めて長い間家を離れて、初めて海外に行って、世界にはまだまだ自分の知らないことがいっぱいあるし、自分はなんて狭い世界で生きていたのだろうと感じました。もっといろんな国に行ってみたいし、いろんな人と話してみたいです。今回学んだ、自分の意思をしっかりと伝えること、「できないかも」より「やってみよう」を大事にすることを忘れず、さらに自分を成長させていきたいとします。そしてぜひ、またコロラドへ行って、お世話になったホストファミリーやタカさんにもう一度会いたいです。本当にありがとうございました。



コロラドスタディツアー報告書

鶴岡中央高等学校 3年 中瀬 早香子

このツアーに参加した理由は、高校生の中にホームステイを経験したいとずっと思っていたからです。最初親には反対されましたが、あのとき粘って本当に良かったと心の底から感じます。

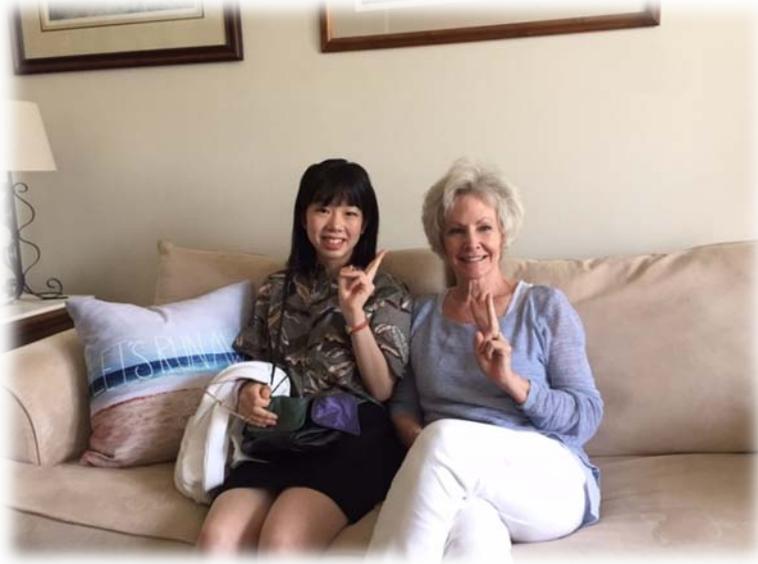
初めてのアメリカ大陸は飛行機から降りた瞬間からワクワクが止まりませんでした。明らかに日本とは空気感が違い、大陸の余裕を肌で感じることができました。ツアーと一緒に行く人はほとんど初対面で緊張しましたが、みんな優しくて話しやすい人ばかりでした。



アメリカの中で一番好きだったのは、いろんな人種の人が出たことです。英語を第二言語としている人が英語という共通の言語で話していると、心の中で嬉しさを感じました。

もう1つは全体的に話しかけやすい雰囲気があることです。日本に帰ってきて知らない人に話しかけようとしたら、「あ、ここアメリカじゃないんだ。」と思ったのがアメリカの自由な雰囲気を証明してくれました。日系人ピクニックのときにキャッチボールをしている親子が出たので、勇気を出して声をかけたら少しの間混ぜてくれました。

アメリカで一番大事だと思ったには、ギブアンドテイクの関係です。ホストマザーのリンダが少し日本語を習っていたようで、「これは何ていうの?」とか、「これはカタカナ?」というような質問をしてくれました。これは私が英語を話やすくするために言ってくれたのかなと思います。実際、ユースインアクションのメンバーと交流したとき、お互いのつたない言語で会話をしたのにもかかわらずとても楽しかったのを覚えています。



ツアーにいる間、一番悔しかったことはやはり英語力です。英語力がコミュニケーションに繋がってしまうため、自分がどういうひとなのか表現できないのがとても悔しかったです。アメリカ人に本来の自分とは違った印象を与えてしまうのが本当に嫌でした。ホストファーザーのケリーはたくさん話す人を好んでいた気がするの

で、今日あった出来事など「日本語だったらたくさん話せるのに」と何度も思いました。次にあったときに再チャレンジするという気ができたので、行く前よりも勉強の熱が高まりました。

日本に帰ってきてから、お土産や写真を見るときにふとアメリカの感覚を思い出します。かなり中毒性のあるものです。この感覚は忘れてはいけない、一生の宝ものです。

11日間過ごしたメンバー、ホストファミリー、孝さん、綾子さん、レジで話した人、写真を撮ってくれた人、最初に食べたピザ店の可愛くて気軽な店員さん、最後に食事をしたレストランの声が高い店員さん、英語が早すぎて聞き取れなかったけどマシンガントークしてくれた高校の生徒の子、他にも沢山の人の人に出会いました。感謝します。



(公財)出羽庄内国際交流財団